

2003-2004年青森県における ハクチョウ類の越冬状況

阿部 誠一

日本白鳥の会, 035-0083 青森県むつ市大平町43-1

日本白鳥の会では、国内の白鳥類定時定点調査を毎月(10月～5月)第2日曜日に行っている。青森県では、8ヶ所を定点として調査をしている。しかし、青森県全域を考える時、この定点だけでは県内の越冬状況を把握することはできない。さらに、定点以外にも越冬する場所が増加したことにより、その羽数は無視できない状況にある。そこで、日本白鳥の会以外にも、日本野鳥の会の会員や一般市民の方の協力を得て、5年ほど前から定点以外の主要な越冬場所も調査できるようになった。そこで、2003-2004年の越冬状況を中心に、2001-2002年・2002-2003年の結果も加えて、青森県のハクチョウ類の越冬状況について報告する。

青森県には、オオハクチョウ・コハクチョウが渡来する。春と秋の渡りの時期は、太平洋側の小川原湖沼群とその周辺、日本海側の津軽地域の湖沼・溜池や田圃などに渡来する。しかし、この群れは一時的に滞在するだけであり、まもなく移動して行く。この「移動型」に対して、渡来地でそのまま越冬する「越冬型」は、県内各地の海岸・河川・湖沼に広がっている。越冬場所が完全に結氷する所ではほとんど移動して行くが、餌付けを行っている所では氷を割って水面を確保しているので、大きな移動は見られない。

次の表1と図1は、3年間の月別ハクチョウ類の越冬状況である。8ヶ所の定点と20ヶ所以上の定点以外を合計した調査結果である。

結果から、11月では03-04年と3月では01-02年に約1,000羽の差があるものの、他の各月はほとんど同じような羽数となった。11月からの飛来は、しだいに羽数を増やし1月でピークとなり、その後しだいに減少して4月で終認となる典型的な越冬地型の結果になっている。さらに、各年との大きな差も無い事から、越冬状況は安定し

表1. ハクチョウ類の月別渡来数

年	11月	12月	1月	2月	3月	4月
2003-2004年	2,578	3,236	4,888	4,335	3,499	223
2002-2003年	1,221	2,877	5,370	4,489	3,947	457
2001-2002年	1,018	3,220	5,256	4,206	2,213	273

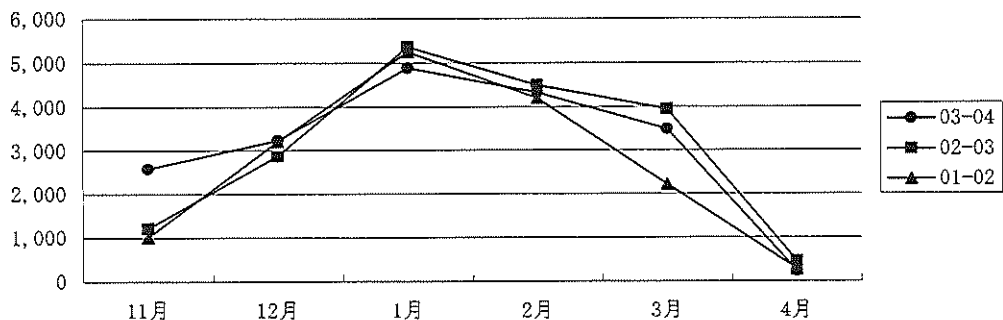


図1. 2001～2004年におけるハクチョウ類の月別渡来数.

ているといえる。

次は、2003-2004年の調査結果である。調査場所が多いことから、環境や地域性などを考慮して県内を5地域に分けてまとめた。

1. 津軽地域（平川：弘前市、藤崎町）
2. 陸奥湾（陸奥湾：三厩村、今別町、平館村、蟹田町、蓬田村、青森市、平内町、野辺地町、横浜町、むつ市、川内町、脇野沢村）
3. 下北郡北部（津軽海峡：佐井村、大間町、風間浦村、大畑町、むつ市）
4. 小川原湖沼群（尾駁沼・鷹架沼：六ヶ所村、小川原湖：上北町）
5. 上北郡・三戸郡地域（坪川：天間林村、奥入瀬川：十和田市、五戸川：倉石村、新井田川：八戸市、馬淵川：八戸市・南部町、熊原川：三戸町、間木堤：下田町、根岸堤：百石町）

また、環境別に見ると、1. 津軽地域と5. 上北郡・三戸郡地域は、内陸部の河川や堤となっている。2. 陸奥湾と3. 下北半島北部は、海岸部や河川の河口部であ

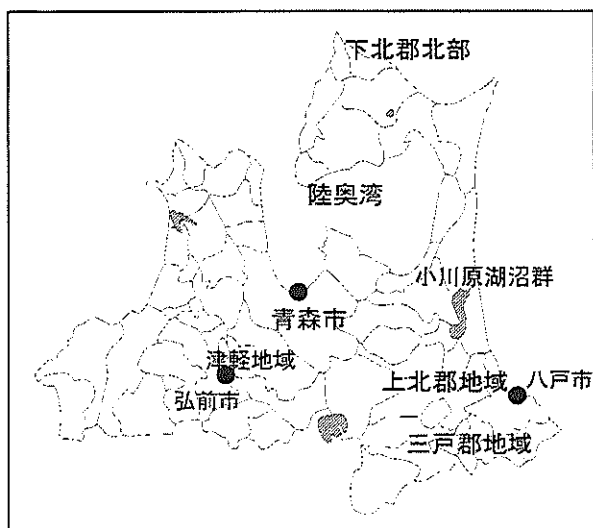


図2. 青森県におけるハクチョウ類渡来地の地域区分.

表2. ハクチョウ類の地域別渡来数.

地域	2003年			2004年		
	11月9日	12月14日	1月11日	2月8日	3月14日	4月11日
津 軽 地 域	0	72	560	283	62	—
陸 奥 湾	1,212	1,095	1,383	1,642	1,970	45
下北郡北部	19	51	55	42	51	—
小川原湖沼群	897	1,160	1,447	1,144	406	161
上北・三戸郡	450	858	1,443	1,224	1,010	17

る。4. 小川原湖沼群は、沼と湖であるが、海水が入り込んでいる汽水域がある。

次に、記録羽数については、2003年11月と2004年3月の場合、越冬地付近の田圃に飛来した群れに、越冬地にいた群れも混じることがあったため、越冬地およびその付近の全羽数とした。

陸奥湾以外の地域では、1月に最多羽数となり「越冬地型」の結果となった。陸奥湾については、11月と3月に陸奥湾西部の海岸に近い田圃に群れが飛来したため「越冬地型」のパターンにはならなかった。特に、3月では1,113羽のコハクチョウが記録されてこの地域の最多羽数となった。

本来、青森県内ではコハクチョウの越冬はあまり多くない。表3は、この3年間のコハクチョウの占める割合である。移動の時期の11月と3月には42%や32%を占めていることもあるが、越冬期(12月～2月)では10%以下であり、越冬している種のほとんどはオオハクチョウであることがわかる。

表3. コハクチョウの割合(%)

年	11月	12月	1月	2月	3月	4月
2003-2004年	9	5	3	0	32	1
2002-2003年	3	3	0	3	2	6
2001-2002年	42	8	1	6	4	0

では、どの地域にどのくらい越冬しているか2003-2004年の記録で見たい。

2. 陸奥湾・4. 小川原湖沼群・5. 上北・三戸郡の3地域に、1,000羽以上が越冬していることがわかる。場所別では、1月の場合、小川原湖：669羽、尾駱沼：483羽、間木堤：474羽であった。図3は、地域別の割合を表したものである。2. 陸奥湾、4. 小川原湖沼群、5. 上北・三戸郡の3地域が、それぞれ約30%を占めていて、県内の主要な越冬地であることがわかる。

次に、この3地域の越冬環境であるが、前述したように、2. 陸奥湾は海岸や河口部、4. 小川原湖沼群は汽水の湖沼、5. 上北・三戸郡地域は内陸の河川や堤と

表4. 2003～2004年の地域別ハクチョウ類越冬数

地域	12月	1月	2月
津 軽 地 域	72	560	283
陸 奥 湾	1,095	1,383	1,642
下 北 郡 北 部	51	55	42
小 川 原 湖 沼 群	1,003	1,292	825
上 北 ・ 三 戸 郡	713	1,440	1,224

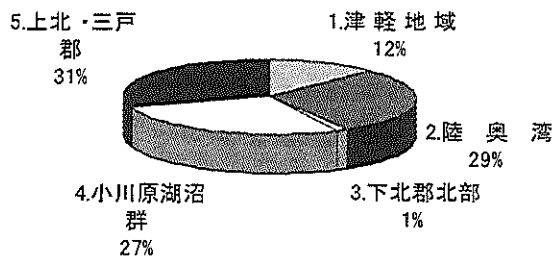


図3. 1月におけるハクチョウ類越冬数の地域割合.

なっている。それぞれ特徴の異なった水域であるが、3地域とも同じような羽数が飛来して越冬している。

以上のことから、2003-2004年の青森県での越冬(12月～2月)状況は、ここ3シーズンと比べると大きな変化は無く、安定した状態にあるといえる。また、越冬している種はオオハクチョウがほとんどであり、コハクチョウは少数にすぎない。なお、コハクチョウは、11月と3月の移動時期には多数が飛来している。越冬地域は、陸奥湾、小川原湖沼群、上北・三戸郡の3地域で全体の約90%を占めている。さらに、この3地域はそれぞれに異なった水域となっている。